

## みんなで考え、みんなで作る修学旅行 ～「前進全礼」の思いをこめて～

愛知県豊橋市立豊岡中学校

### I はじめに

本校は豊橋市の中心地から東へ約四キロ。豊橋市民球場に隣接した閑静な住宅街の一角にある。平成25年度の生徒数は、男子294人、女子278人、合計572人である。通常学級は16クラス（1年－5学級、2年－5学級、3年－6学級）あり、特別支援学級も2クラス（在籍6人）ある。本校へは、豊小学校と岩田小学校の卒業生が入学。中学校と小学校との連携も盛んである。

本校のテーマは「あいさつ・歌・ボランティアの豊岡中」。心のこもったあいさつがあふれ、すばらしい歌声が響き、ボランティア活動に積極的に取り組むことを意識して、学校生活をおくっている。授業への取り組みや生活態度もとても良好。落ち着いた雰囲気、まじめに一生懸命がんばることをお互いに認め合うことができる中学校である。生徒たちも現状に満足することなく、少しでも向上していくことを目指している。このような校風が地域からも認められ、住民の方々が生徒の善行を知らせてくださることも数多い。また、本校生徒もボランティア活動の一環として、地域清掃活動を展開している。

部活動も盛んである。現在、12の運動部と4つの文化部が熱心に活動している。本年度は野球部が愛知県大会で優勝するなど、輝かしい実績を残した。勝利至上主義に陥ることなく、あいさつや支えてくれる方々への感謝の気持ち、部活内のチームワーク等も重視している。また茶華道部やボランティア部といった文化部も存在。茶華道部の生徒が生けた華道の作品が校内各所を飾ったり、定期的にお茶会も開催されている。このような活動で、落ち着いた「和」の雰囲気がひろがっている。また、ボランティア部は普段手の届かないようなところの清掃活動を実施。コンクールで表彰されるなどの目立つ活動ではないが、ボランティア活動の本質を大切にしている。

昭和25年の開校以来64年。地域に愛されながら日々教育活動に励んでいる。

### II 本校の「特別活動」

本校の特色の一つに、多彩な「特別活動」が挙げられる。伝統的に、生徒会活動を中心として、生徒が自分たちで考え、様々な活動を実践してきた。実践にあたって重視しているのが「みんなで」という姿勢である。一部のリーダーが主導権を握るのではなく、全校生徒が生徒会の一員であることを自覚し、一人ひとりが豊岡中学校を支えているという意識を高めていくことを心がけている。そのために、「自分たちの意見が反映された」という実感がもてるように、一般生徒の考えやアイデアを吸い上げながら、活動にあたっている。

**今、みんなで考動！！！！**

～あいさつ・歌・ボランティアの豊岡中～

これは、平成24年度の生徒会テーマであり、年間を通して、豊岡中生徒の目指す姿をあらわしたものである。

「みんなで」を強く意識して、毎年のテーマが設定されている。「みんなで」を強く意識した活動の一つが「ホリデーボランティア」。これは、生徒会が有志を募り、年三回程度、休日に公園等の清掃に取り組むもの。休日の自主参加である



にもかかわらず、毎回200名以上が集まっている。上の写真は、その一コマ。右の帽子の少女は、地域の小学校低学年。中学校だけでなく、豊小、岩田小にも呼びかけて、「みんなで」活動に取り組んでいる。

このホリデーボランティアは、ほんの一例である。三大大行事である体育大会、生き生きフェスティバル（文化祭）、合唱コンクールをはじめとする様々な場面で、「みんなで」を意識することが本校の伝統である。

### Ⅲ 本校第三学年の2012年までの実践

2011年4月の入学以来、本学年も本校の伝統である「みんなで」を意識して、学習をすすめてきた。元気で、いい雰囲気「みんなで」つくっていく実践をいくつか紹介したい。

#### 1. 選手激励会 <1年・7月>

1年	7月	選手激励会
	10月	学年集会
	2月	三送会
2年	5月	名古屋分散学習
	8月	レベルアップ合宿
	11月	職場体験学習
	2月	三送会



7月の総合体育大会の選手激励会は、一年生が応援団を結成し、先輩たちに熱いエールをおくっている。本学年は、全員応援を実施。写真右は応援団員、左が群読チーム。先輩たちを間に挟み、全力応援をやり遂げた。応援団員だけでなく、群読チームも大活躍。「踏み出せ。最後の一步！」と熱いメッセージを届けた。「一年生があればがんばれるんだから、僕たちもがんばれる！」と三年生の先輩から、これ以上ない褒め言葉もらった。

## 2. 学年集会 <1年・9月>

本学年は、学年集会での話し合いを積み重ねてきた。定期的に、学年の現状や改善点を「みんな」で話し合っている。写真は、1年10月のもの。この話し合いで、「いい雰囲気をつくる」ということを学年みんなを確認した。

なお本学年では、司会者の指名を待つのではなく、発言者は自主的に立って、発言していく形式で実施。多くの意見が繋がっている。



### 【生徒の感想】

・学年集会で、一人一人が率先して発言し、夢の一年生全員発言が理想です。そうすることで学年の輪がひろがり、学年のモットーである『いい雰囲気』というものが自然とつくりだされるのではないのでしょうか。

## 3. 三年生を送る会 <1年・2月>

2月の三送会では、三年生へ感謝の気持ちをこめて、学年みんなで人文字をつくった。一年生全員がパネルを持ち、白と黒のパネルを操って、「TOYOOKA」「アイサツ・ウタ」「ボランティア」「アリガトウ」の文字を浮かび上がらせることができた。

この人文字はレベルが高い。自分たちからは、どのような文字になっているか全く見えない。パネルを回転するタイミングがバラバラになったら、目も当てられない。「本当にできるの?」「文字になるか?読めるか?」という声もちらほら聞こえてきたが、すべて杞憂であった。

「みんなで」心を合わせて、みごとやりとげることができた。

「今日この三送会でみんなの姿を見て、安心して卒業できるなあ、と思いました。」三年生の先輩からもこのような言葉をもらい、「みんなで」がんばることの大切さを改めて実感することができた。





#### 4. 名古屋分散学習 <2年・5月>

「自立革命～あたり前のことは、あたり前に～」をテーマに、名古屋分散学習を実施。これは修学旅行の東京班別分散学習を想定してのもの。自分たちで約束事を決め、班を作り、訪問先を決定。公共交通機関の時刻を調べて行程表を作成した。そして、安全面で配慮することは何か、自分たちで想定し、名古屋分散学習の当日を迎えた。

当日は、全36班がおおむね行程表の計画通り活動することができた。大きな事故もなく、安全面に配慮した行動をとることができた。最終チェックポイントの豊橋駅では、「先生、名古屋の人ってすごく親切です。道を聞いたら、とてもいねいに教えてくれました。」という弾んだ声も聞かれた。

その一方、みんなで決めた約束事を守れなかった生徒がいたことも判明した。大きな反省材料となった。そこで緊急に学年集会を実施。みんなで学年全体のことを考える機会を設定した。一時間の学年集会の中で、197の意見が出た。



##### 【生徒の意見】

- ・がまんしてほしかった。みんなで決めたことだから、簡単に破ってほしくなかった。
- ・僕は、止めようとした。でも、できなかった。だから僕も同罪です。
- ・先生がいるから、しっかりやる。なんていうのは、どの場でもしっかりできない人だと思います。先生がいなくてもしっかりできる人が、本当に強いんだと思います。
- ・私は、ルールを守れている人の話を聞いて、すごく胸が痛くなりました。ルールを守っている人を裏切ってしまいました。
- ・僕は本当の仲間というものは、悪いことをした時には注意しあえて、笑う時にはいっしょに笑えて、そういうのが本当の仲間だと思いました。
- ・名古屋分散の一日は、失敗だったかもしれませんが、でも、名古屋分散学習をやったおかげで、甘い心や改善すべき点に気づくことができました。これからこの改善点を学年全体で直していきます。そして、自分たちが成長することで、名古屋分散学習が成功だといえる日が来ると思います。

成果と課題が浮かび上がった名古屋分散学習。「みんなで」成果と課題を確認することができた。

## 5. レベルアップ合宿 <2年・8月>

本学年は定期的に「レベルアップ研修」を行っている。これは、有志の参加者で学年の現状や改善点、今後の重点ポイント等を話し合うもの。この活動を通して、自分の考えをしっかりと語る力やリーダー性、学年を大切に思う気持ち等を育てることを狙っている。

一年生の時には夏休み中の半日を使って、学校で有志の生徒を募って「レベルアップ研修会」を行った。「どうすれば学校、学年、学級が良くなるか」を夏休み前に課題として出した。同日は、どうすれば集団の力がついていくか、具体的な手立てについて話し合った。また、レベルアップ研修の中で、自分と同じ思いでいる人をたくさん発見したことで自信をもち、後期の学級役員の立候補につなげる生徒が多数いた。



二年生時は、8月28日(火)、29日(水)に、豊橋市野外教育センターにて一泊二日で実施した。参加者は有志55名。リーダーシップをとることは苦手だけれど自分を変えていきたい、という思いで参加した生徒も少なくない。

話し合いの場面では、学年をより良くしていくには・・・という視点から多くの意見が出された。三年生が部活動を引退した今、豊岡中を背負っていくのは自分たち二年生という思いを新たにすることができた。その一方、すべての場面で話し合いがスムーズに進んだわけではない。仲間に頼ってしまったり、自分の考えをなかなか発言できないこともあった。このような自分たちの改善点に改めて気づくこともできた。

- ・実は私は、参加するかどうかとても迷いました。ちょっと自信がありませんでした。でも参加して、本当に良かったです。
- ・僕が学んだことは、人前で自分が思っていることを言う大切さです。今までは、他人まかせで発言できていませんでした。でもこのレベルアップ合宿で、一人の発言がその場の雰囲気をつくるということがわかったので、これからの自分を変えたいです。
- ・私は九月から積極的に自分の意見が言えるようにしたいです。今までは悪いこととかを流されてやってしまっていたけれど、これからは「それはダメだよ」って言ったりして、止められるようにしたいです。あと、どんな小さなことにでも気づけるようにしたいです。
- ・「レベルアップ合宿に行って変わったね。」って言われるように、九月から全力でがんばります。
- ・正直に書くと私は今まで「まだ2年生なんだ」という甘えがありました。心のどこかで三年生に頼っていました。この合宿でこのことに気づきました。今できないことは、三年生になってからもできません。2年生として、もっとしっかりしたいです。

また、レクリエーション集会や飯盒炊飯も実施。各グループの出し物を楽しんだり、ともに焼きそばをつくる中で、仲間の意外な一面に気づいたり、協力することの大切さを実感することができた。少しずつではあるが、一泊二日の活動を通して確実にレベルアップすることができた。

九月当初の学年集会で、レベルアップ合宿で話し合った内容を報告。また、学年通信でも参加者の声を紹介した。参加者だけレベルアップするのではなく、学年全体の意識を高め、「みんなで」レベルアップすることを狙った。

## 6. 職場体験学習 <2年・11月>





職場体験学習では、体験先が個々に違っているが、「みんなで」活動するという意識をもつことを心がけた。体験先までの行き帰りについては、修学旅行班別分散学習を想定し、行程表を作成。また、安全面やマナー面で配慮することなど、意見を出し合いながら学年集会で確認した。

三日間の職場体験学習で、働くことの意義や厳しさ、そして進路選択の重要性について、多くの生徒が肌で感じる事ができた。

- ・看護師の仕事をさせてもらって、「人の役に立つことって難しい。」と思いました。でも、職場の方も言っていたように、やりがいのある仕事だなあ、と改めて思いました。
- ・協力というものを学びました。仕事をしている仲間同士で協力し合っているから、あんなステキなお店屋さんになっていると思いました。私たち二年生も、ステキなお店さんになれるように、もっともっと協力していきたいと思いました。
- ・学んだことは、職場で働く大変さです。違うことをやっても、途中で新しいお客さんが来たら、席を案内しないとイケません。休憩時間をあまりとれていない人もいて、大変そうでした。でも、お店の人はお客さんに明るく笑顔で接していたので、すごいなあと思いました。
- ・保育園を出てからは、つつい泣いてしまいました。でも、泣けるほど三日間は充実していました。あと、子供が好き、というだけでは保育士にはなれない、と思いました。

このような生徒の声を、学級通信、学年だより等で学年全体に発信。個々の思いを学年全体でも共有することに努めた。

#### 7. 三年生を送る会 <2年・2月>



二年時の三年生を送る会では、写真のように「とよおかサイコー」の文字を卒業していく三年生に贈った。「先輩たちのおかげで、楽しい学校生活を送ることができました。これからは自分たち二年生が、さらに豊岡を進化させていきます。」という決意をこめたメッセージ。この思いは三年生にも大いに響いたようだ。

#### 【3年生の声】

- ・今日はとても感動しました。本当に、豊岡でよかったと思います。これから卒業まで一週間なので、今までお世話になった人への感謝の気持ちをもって過ごしていきたいと思いました。最高の一週間だったと言えるような生活を送りたいです。
- ・今日は、三年生が送られる会でした。もう部活の後輩が、かわいくてかわいくて！中一の時、手話をやった時に、クラリネットの三年の先輩が号泣していて、その気持ちが今日すごく良くわかりました。「1, 2年生へ贈る会」とか、お返しに開けるものなら開きたいくらいです。
- ・最後の場面で、二年生の整列の仕方がすごく良かった。「とよおかサイコー」の文字もすごく感動したけど、その土台となる二年生の整列が本当にきれいだった。二年生の息が、ピッタリと合っていると思った。

これらは三年生の声のごく一部である。「二年生の息が、ピッタリと合っていると思った・・・」。三年生からもサイコーのほめ言葉をもらうことができた。



このように「みんなで」を大いに意識した活動を積み重ねてきた。みんなで活動したり、みんなの考えを共有することで、学年全体の向上心や仲間意識も育ってきた。そして、2013年、いよいよ修学旅行がはじまった。



#### IV 2013年度の実践

##### 1. 修学旅行の位置づけ

第1学年、第2学年において、学校行事を中心に生徒主体で運営できるように取り組んできた。行事の企画段階では実行委員を募り、生徒たちの考えがより反映されるようにしてきた。また、教師から生徒に伝えるのではなく、生徒から生徒へ伝えあえるようにしてきた。しかし、これまでの実践では、考えてはいてもうまくかたちに表れなかったり、思っているものが上手に伝わらなかったりした。

修学旅行では、培ってきた土台の上に、これまでにあがった問題点を克服しつつ、生徒の思いがより表れるものにしていきたいと考えた。

また、行き先である、東京、横浜方面は、普段、自分たちが生活している地域にはないものがたくさんある。大企業や最先端の技術、日本の伝統工芸など生徒の多様な興味に広がるものが多い。したがって、今後の進路を考える上でも大きな意味をもつものであると考え、二年時に行った職場体験を踏まえ、さらに自分の進路を見つめる機会にもしたい。

##### 2. ねらい

- (1) 集団生活を通し、協力することの大切さを理解するとともに、望ましい社会性や公衆道徳を身につける。
- (2) 楽しく学びのある修学旅行を学年全員でつくり上げることで、協調性や思いやりの意識をもつことができる。
- (3) さまざまな企業の仕事に対する考え方や、最先端の技術、伝統工芸の技能にふれることで、日本のものづくりに携わる人たちの考え方を学び、今後の自分の進路を考えることができる。

##### 3. 基本的な考え方

- (1) 今、みんなで作ってあげよう！

豊岡中学校では、生徒会スローガンである「今、みんな」をテーマに様々な行事に取り組んできた。そのテーマの実現のために、学校全体にかかわる行事はもちろん、学年の企画などもすべて実行委員を中心に行ってきた。

修学旅行においてもこれまでの流れを受け、実行委員を中心に準備を進めていく。具体的に言うと、旅行の行程やしおり作りなど、企画の中心的な部分を教師主導ではなく、生徒が自ら考えて作っていくこととした。特に、しおり作りにおいては、持ち物、小遣いやルール、行程の中の細かい注意点等を一人一人が考えるようにした。その際、話を中心的に進めていくのは実行委員だが、必ず各クラスの考えを吸い上げて話を進めていくこととした。そうす

ることで「みんなで」の考えで修学旅行を作り上げることができると考えた。

(2) 「前進全礼」の思いとは

修学旅行の計画を進めるにあたり、まず、テーマを設定した。各クラスどんなテーマが良いか話し合いを行い、それを持ち寄って実行委員の話し合いによって決定した。

決まったテーマは「前進全礼」。四字熟語「全身全霊」をもじった造語であり、一字一字に意味を込めた。

- ・前・・・先を見立てて行動
- ・進・・・一步成長
- ・全・・・全てのことに感謝
- ・礼・・・礼儀正しく

込められた意味には、これまでの様々な活動の中で、生徒自身が見つけた大切なものである。自分たちが決めたこのテーマを、準備段階から修学旅行終了後の学習まで意識し、実現に向けて取り組んだ。

(3) 自分のキャリアを見つめて

修学旅行では、行程の中に班別の分散学習を設定した。その中では、東京でしか見られない、ふれられないものに出会うことができる。普段は目にしない様々なものから生徒は刺激を受け、それは今後の自分の進路選択の一助となる。

修学旅行の終了後に、修学旅行で学習したことを論文（学習レポート）にまとめることとした。その中で、様々なものに触れた時感じたこと、そこで生まれた自分の進路に対する思いを論文としてまとめることで、今後の自分の将来を考える機会となると考えた。

4. 日程

7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

一 日 目	豊橋駅集合 8:00 豊橋駅発 8:45 ひかり 508	東京駅着 10:10 鍛冶橋駐車場 (バス)	スカイツリー — 国会議事堂 ※2グループにわかれる 国会議事堂 — スカイツリー	夕食：バイキング ナイトツアー（池袋サンシ ヤインシティ）	旅館着 21:20 入浴・就寝
二 日 目	起床 6:00 朝食	旅館 発 8:00～ 班別分散学習（各班の計画）	東京ディズニーリゾート体験 集合 16:00		ホテル着 21:30 入浴・就寝
三 日 目	起床 6:00 朝食	ホテル 発 8:00～ 学級別分散学習（各クラスの計画）	東京駅集合 15:45 東京駅発 16:33 ひかり 521	豊橋駅着 17:58 解散 18:10	

## 5. ねらいに迫るための具体的な取り組み

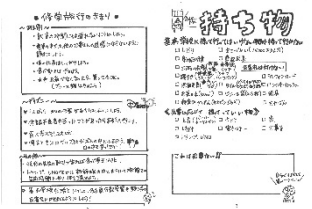
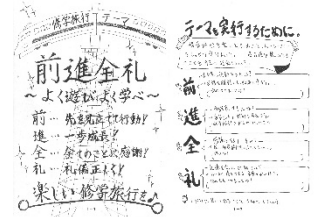
### (1) しおり作り

#### ① みんなで決めた持ち物、お小遣い

修学旅行の計画の始め、しおりを作るにあたって実行委員を募集した。集まった実行委員の中で、「テーマ」「ルール」「持ち物」「服装」「お小遣い」について役割分担をし、それぞれ考えていった。学級の時間を使ってクラスの考えをまとめ、それらを実行委員が持ち寄って練り合い、決まったことを再度クラスに広げるといったことを繰り返し行った。

その中で、テーマやルール、服装については、ある程度スムーズに決まっていたが、持ち物、お小遣いについては、クラスによって考えが違っていたり、個人によっても大きな違いがあったりした。そこで、実行委員を司会に立てて学年集会を開き、その中で決定することとした。

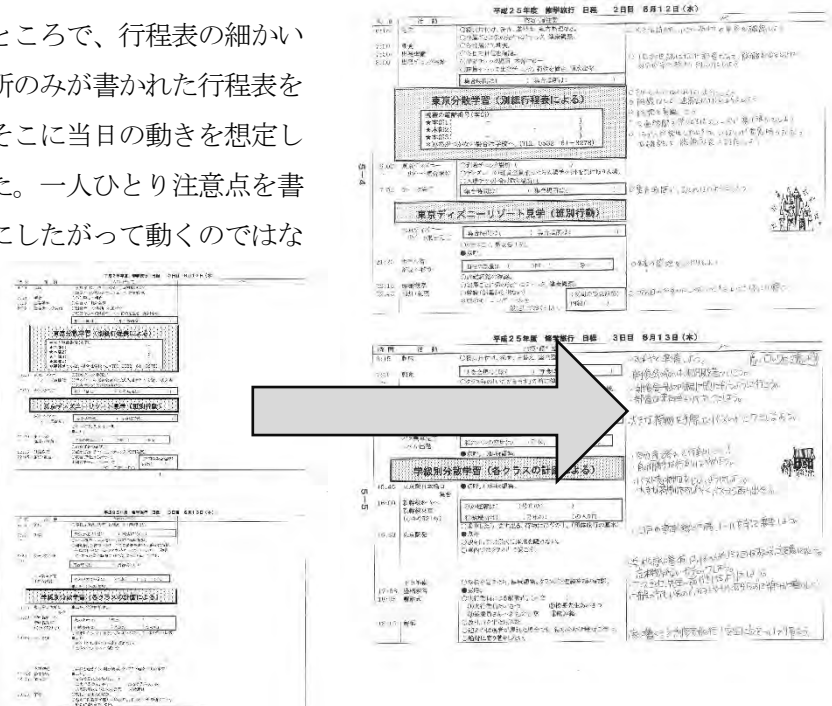
実行委員からの提案を受け、質疑応答を行った。持ち物については、「日ごろ自分が使っているものやカードゲームなどについて持ってきてもいいか」など、また「お小遣いはもっと欲しい」といった意見が出た。その中で、「修学旅行の目的は何か」「本当に必要なものは何か」について、テーマに沿って考えるような意見が出た。その意見が尊重され、全員が納得する形で持ち物、お小遣いが決定した。集団生活を送る上で、必要なもののみが残った。



#### ② 行程表への書き込み

しおりの大体が出来上がったところで、行程表の細かい詰めを行った。始めは時間や場所のみが書かれた行程表を渡し、右側にメモ欄を設けた。そこに当日の動きを想定した注意点を書き込めるようにした。一人ひとり注意点を書き込むことで、与えられた行程にしたがって動くのではなく、自ら先を見て行動ができるようになると考えた。

一人ひとり、メモ欄を書き込んだ後、持ち寄って話し合いを行った。他の人の考えに耳を傾けながら、自分の行動を想定し、当日を見据えたしおりの行程表を書き上げることができた。





(2) 学級別分散学習の計画

三日目には学級別の分散学習を計画した。全体とは別に、生徒の目的に応じた行程を計画できるよう、各クラスで目的を設定し、それに応じた場所を決めることとした。計画を進めていく際には、学級の中で実行委員を募り、計画の中心となってクラスの考えをまとめていった。

パンフレットや雑誌、インターネットなどを使い、一人ひとり目的地を考え、それをクラスの中で話し合っ  
て絞り込んでいった。浅草や横浜など、クラスごとの目的に応じた場所に決定していった。



(3) 班別分散学習の計画

「みんなで考え、みんなで作る修学旅行」をより具現化するために、班別の分散学習を取り入れた。5人〜7人程度を一班とし、その中で個々の興味関心に応じた学習が行えるよう目的地をそれぞれで決め、二日目の予定を計画していった。また、班の中でも企画実行をスムーズにいくよう「班長」「副班長(行程表)」「保健・食事」「案内役(ナビゲーター)」「学習」「会計」と、一人に一役以上いきわたるよう役割分担をした。各班で計画を進めつつ、「班長会」など学年の各役割を集めて話し合いをするなどして、問題点を洗い出したり、共通理解を深めたりした。



班別分散学習の準備の中で、最も多くの時間をかけたのが行程表づくりである。これは全員にかかわることなので、係の人だけでなく班員全員が作ることにした。雑誌やインターネットの情報を手掛かりに目的に応じた行き先を決め、時間内に回れるよう交通手段を調べて計画した。

一通り完成したところで、当日、本当に予定通り回れるかどうかを確かめるため、旅行社の方に学校に来ていただき、完成した班から1班ずつチェックをしてもらうこととした。行程が無理なく回れるかどうか、また、よりスムーズな交通手段のアドバイスをもらうなどして、当日、困ることがないように行程表を完成させることができた。



(行程表) 2日目 班別分散学習 3年 組 / 班 氏名( )					金額	備考
時分	場所	移動手段	所要時間			
9:50	北 恵明館	徒歩 20分				
9:55	青 東横田駅			160円	パンフレット 一編いじ	
9:57	赤 浅草	東京メトロ丸の内線		240円	1時間45分	
9:59	黄 浦馬	西武池袋線 浦馬駅前				
10:00	緑 浅草	西武池袋線 浅草駅前				
10:05	青 浅草	東武田舎線 浅草駅		170円		
10:10	赤 浅草	東武田舎線 浅草駅		170円		
10:15	黄 浅草	東武田舎線 浅草駅				
10:20	緑 浅草	東武田舎線 浅草駅				
10:25	青 浅草	東武田舎線 浅草駅				
10:30	赤 浅草	東武田舎線 浅草駅				
10:35	黄 浅草	東武田舎線 浅草駅				
10:40	緑 浅草	東武田舎線 浅草駅				
10:45	青 浅草	東武田舎線 浅草駅				
10:50	赤 浅草	東武田舎線 浅草駅				
10:55	黄 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:00	緑 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:05	青 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:10	赤 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:15	黄 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:20	緑 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:25	青 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:30	赤 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:35	黄 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:40	緑 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:45	青 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:50	赤 浅草	東武田舎線 浅草駅				
11:55	黄 浅草	東武田舎線 浅草駅				
12:00	緑 浅草	東武田舎線 浅草駅				
合計					4000 円	

#### (4) ディズニーランドかディズニーシーか

修学旅行の予定の中に、ディズニーリゾート見学がある。生徒たちにとって大きな楽しみのうちのひとつだ。ディズニーリゾートのテーマパークの中には、ディズニーランドとディズニーシーの二つがある。生徒の目的の達成のために様々な計画を生徒主体で行ってきた、その流れを受け、ディズニーにおいても、ディズニーランドにするか、ディズニーシーにするか、選択制にした。

ディズニーの予定は二日目の夕方に入っており、班別分散学習の後にある。班別分散からディズニーへと、一人ひとり時間内に間に合うように計画した。

### 6. 当日の様子

#### (1) 1日目・・・保護者の方も「みんなで作る修学旅行」



1日目の目的地は東京スカイツリーと国会。学年全体で行動した。両方とも「初めて行った」という子が多く、それぞれに高い関心をもって見学していた。

東京スカイツリーでは、展望デッキとソラマチの両方を見学した。展望台の高さやそこから見える景色、フロアに紹介された東京の歴史、ソラマチの東京ならではの品物など、興味深く見入っていた。

国会では、ガイドに従って見学した。テレビや資料などで一度は見たことはある国会の重厚な建物の雰囲気、若干緊張気味であった。国会議事堂に入り、説明を受けた。議事堂内がどのようになっている、どのように会が進められるか、熱心にメモを取りながら聞いていた。



見学後、学年全体で池袋のサンシャインシティで夕食をとった。



ここで一つ、生徒たちには内緒でサプライズの企画を行った。

夕食の途中、この修学旅行期間中に誕生日を迎える生徒をみんなでお祝いする場を設けた。それに引き続き、「みんなに素敵なプレゼントがある」と担任から、一人一人の生徒にあるものを渡した。中身は「親からの手紙」である。修学旅行前、今回の企画の趣意説明と便箋と封筒を各家庭へ送った。ここまですててきた子どもへの思いを、この機会に手紙にして欲しいとのお願いに応じてくださり、生徒全員の保護者から手紙が届いた。

封を開けると、全ての生徒が食い入るように手紙を読んだ。静寂の後次第にすすり泣く声が聞こえてきた。いつもと違い、離れた場所からかけられた親の声、その思いに、生徒たちは深く感じ入った様子であった。



手紙を読んだ後、返事を書くこととした。翌日の朝投函し、みんなが帰る前には手紙が家につくことを説明し、はがきを渡した。旅館に行くと、それぞれの部屋で一人ひとり、今は遠く離れた親に思いを馳せ、鉛筆を走らせていた。

(2) 2日目

① 班別分散学習

班	班員	出発CP	7	8	9	10	11	12	13	14	15	到着CP	班
1-1	6	9:00			東京大学		江戸切子 浅草おじま			国立科学博物館		15:53	1-1
1-2	6	8:30			国立科学博物館				上野動物園	しの原まるよし風鈴		15:52	1-2
1-3	7	7:50			コココーラ 多摩工場				サンシャイン国際水族館			15:45	1-3
1-4	5	9:00			東京都水道歴史館		東京都庁			夢の島熱帯植物館		15:45	1-4
1-5	7	8:20			向島梅鉢本店			セイコーミュージアム		くすりミュージアム		15:57	1-5
1-6	4	9:00			あめ細工吉原		靖国神社			トリックアート壁画群		15:52	1-6
2-1	6	8:30			すみだ産業館	すみだ江戸切子				東京タワー		15:45	2-1
2-2	6	8:25			フジテレビ					[祖食品サンプル]		15:55	2-2
2-3	6	8:15			すみだ江戸通り散策		江戸切子 浅草おじま			台場散策		15:43	2-3
2-4	6	8:30			国立科学博物館			すみだ江戸切子		インターメディアテック		15:48	2-4
2-5	6	8:10			カッパヌードルミュージアム				中華街			15:56	2-5
2-6	5	8:27			東京駅散策		東京タワー			元祖食品サンプル屋		15:54	2-6
3-1	6	7:50			コココーラ多摩工場					エブソン品川アクアスタジアム		15:51	3-1
3-2	6	8:54			上野動物園					元祖食品サンプル屋		15:52	3-2
3-3	5	8:00			日本科学未来館					エブソン品川アクアスタジアム		15:56	3-3
3-4	5	7:50			コココーラ多摩工場					国立科学博物館		15:48	3-4
3-5	6	9:00			上野動物園					東京国立近代美術館	おしべアート	15:55	3-5
3-6	6	7:50			コココーラ多摩工場					サンシャイン国際水族館		15:48	3-6
4-1	6	9:00			日テレタワー					サッカーミュージアム		15:45	4-1
4-2	6	9:05			日伸貴金属					東京大学地産研究所		16:07	4-2
4-3	5	9:00			上野動物園		江戸切子 浅草おじま			江戸切子 浅草おじま		15:54	4-3
4-4	5	8:50			日本科学未来館					銀座散策		15:52	4-4
4-5	6	8:00			森永製菓館見工場			カップヌードルミュージアム				16:00	4-5
4-6	6	8:45			人形焼本舗板倉店					元祖食品サンプル屋		16:20	4-6
5-1	6	8:34			浅草寺		江戸切子 浅草おじま					15:44	5-1
5-2	5	8:30			東京大学					ガスの科学館		15:44	5-2
5-3	6	9:00			国立科学博物館					エブソン品川アクアスタジアム		16:00	5-3
5-4	6	8:25			ハーゲンダッツジャパン					日本科学未来館		16:00	5-4
5-5	5	8:30			東京大学		江戸切子 浅草おじま					16:00	5-5
5-6	6	8:55			船の手形					日本科学未来館		15:47	5-6
6-1	5	9:00			パナソニックセンター東京					フジテレビ		15:47	6-1
6-2	6	8:50			上野動物園					水の科学館		15:56	6-2
6-3	6	9:00			NHKスタジオパーク					竹下通り		15:46	6-3
6-4	6	9:00			日テレタワー					エブソン品川アクアスタジアム		15:54	6-4
6-5	6	9:00			日テレタワー					エブソン品川アクアスタジアム		15:55	6-5
6-6	6	9:00			品川水族館					ハーゲンダッツジャパン		16:31	6-6
89	3	7:45			羽田空港	JAL				カッパヌードルミュージアム		16:00	6-9

一班を5人から7人として、合計37班作って班別分散学習を行った。事前学習にて、目的地や行き方を各班で決めて行程表を作成した。当日はその行程表をもとに行動した。

目的地には、個々のねらいに応じて様々な場所が選ばれた。メディア関係、産業、伝統文化など東京ならではの場所へ見学に行った。モノづくりに携わる人の話を聞いてその思いにふれたり、実際にものを作ったりなど様々な体験を通して、普段は得られないものを感じることができた。

- ・見た目よりもガラスを削るのは難しく、文字を削ろうとしたとき、職人さんが「貸して、やってあげる」と言われてしてもらいました。ぴったりマジックで書いてあるところが削られていて、すごいなと思いました。
- ・伝統や、いろいろな職人がどんな思いでいるのかなどをもっと知りたいと思った。また、伝統が今後ちゃんと続いていくのか心配になった。
- ・勉強とかでわからなかったら答えを見ればいけど、新しい商品を作るには答えを自分たちで探さないといけないし、そんなに時間もかけられないから、一つのことにごく集中しないとけないから大変だなと思いました。



## ②ディズニーリゾート

生徒たちの思いで作りに上げる修学旅行のさらなる実現のため、ディズニーランドかディズニーシーを自分の行きたいほうへ行くこととした。班別分散学習の後、それぞれの希望した方へいけるよう個々に計画を立て、それに従って行動した。

当日は、全員予定通り、希望した方へ到着し、それぞれの時間を楽しんだ。

- ・一番の思い出はディズニーランドです。大好きな友達と4人で行ったディズニーランドはとっても楽しかったです。思ったよりも人はたくさんいて、とても混んでいたけど、待っている時間のおしゃべりも全部が楽しくて時間が過ぎるのがとても早く感じました。
- ・一番の思い出はディズニーシーで過ごした時です。シーでは自分の大好きな絶叫系に乗ることができ、待っているときでも友達としゃべったりしてみんなとも写真がとれ

## (3) 3日目・・・学級別分散学習

### ① 1組・・・浅草 ～ 原宿 ～ 秋葉原



### ② 2組・・・浅草 ～ 築地



僕ら3年2組は、クラス分散で浅草、築地へ行きました。築地は修学旅行でこの場所にある状態で訪れることができるのは今年が最後だということで、とても貴重な訪問でした。当日は小雨が降っていましたが、みんな思い思いに買い物を楽しんでいました。

浅草から築地に移動する際、水上バスに乗りました。船の上はとても快適で、あまりの心地よさで寝てしまった人がいる程でした。雨のため、名物のスカイツリーは見ることができませんでしたが、つかの間の40分間をおしゃべりしたりしながら楽しむことができました。

また、昼食に訪れたもんじゃストリートでは、普段の給食では絶対に見られないクラスメイトの顔を見ることができた気がします。お皿を片手に我先にと鉄板に群がる様子は、ある意味圧巻でした。

3日間の旅行の最後に行われたクラス別分散。一生忘れることがない思い出とともにクラスの深い絆を得ることができた1日だったと思います。

③ 3組・・・浅草 ～ お台場



④ 4組・・・浅草 ～ お台場



⑤ 5組・・・横浜 ～ 中華街



⑥ 6組・・・浅草 ～ 東京タワー



私たちのクラスは、学級別分散でお台場、浅草へ行きました。お台場ではクラスみんなでバイキングを楽しみました。

初めに学級でどこへ行くのかアイデアを出し合ったとき、テレビ番組の収録観覧、花やしき、水上バス、横浜中華街、お台場などたくさんの意見が出ました。学級が始まったばかりの時にみんなですべて自由に考えたり、調べたりして楽しみにする気持ちが高まりました。またテレビ番組の収録には参加できない、と分ったり、花やしきがメンテナンスで休業、と分ったりしたときはクラスみんながっかりしながらも、みんなの気持ちが一になっていることがわかり、とても嬉しかったです。その後もいろいろなコースを先生が提案してくれたり、私たちも話を聞きながら考えたりして、とても楽しい気持ちが高まりました。

修学旅行は1日目も2日目も班別分散学習だったので、とても緊張して計画を立てたり、実行したりしたのですが、この学級別分散は、担任の先生方も一緒になって考えてくださったし、当日も先生方が一緒だったので安心して楽しむことができました。

残念ながら当日は雨でしたが、道中のバスの中でガイドさんに教えていただいたお化け屋敷や、浅草の名物などの買い物を楽しみました。みんなですべてじゃんけん大会をしたのも思い出に残っています。またお台場でのランチタイムは、クラスみんなでバイキングがとても楽しかったです。この一日でクラスの絆が深まったし、クラスみんなの知らなかった一面を見ることができてとてもよかったですと思います。

## 7. 「前進全礼」を振り返って

教師の指示のもと、「連れて行ってもらう」修学旅行ではなく、自分たちで計画し、自分たちで行動する「みんなで考え、みんなで作る」修学旅行を目標として取り組んだ。テーマである「前進全礼」は修学旅行の全ての活動において、大切にしてきた。

修学旅行後、テーマである「前進全礼」に対し、一人ひとり振り返りを行った。

「前」・・・先を見立てて行動

- ・班別行動は予定通りに進めていたけど、最後に道に迷ってしまい、何とか親切な人に教えてもらって到着できたので、道調べが少し甘かったなと思いました。後は、点呼などをどこでやるかを考えてすばやく行動することができた。
- ・しおりをしっかり読んで、もし次のことがわからなかったらすぐにしおりを見て、確認して、時間や行動に遅れがないようにしました。バスの時間や集合時間に遅れないように、早めに行動をしました。余裕をもってやりました。
- ・当日は行程表とかしおりにある予定表などを見て先の行動をしっかり覚えて行動することができました。当日前に、日程のメモのところはその時のことなどを想像したりして書くことができました。
- ・行程表などのやるべきことをなるべく早く終わらせて、余裕をもって行動できた。また、当日も電車賃などの先にわかっていたお金は先に準備しておいて、スムーズに切符などを買えた。
- ・旅館やホテルの時、次に何があるか把握して、その準備をした。これからの生活にも、先を見立てて行動は大切だと思うので、修学旅行の時と同じようにできるようにしていきたいです。

「進」・・・一歩成長

- ・先生たちに何かを言われたりしなくても過ごせた。旅館でできることは手伝うなど、自分たちで考えて動くことができた。
- ・今までは時間を意識して行動をしたことがあまりなくて、時間ぎりぎりだったり、遅れたりだったけれど、修学旅行でしっかり時間内行動ができたのでよかったです。
- ・名古屋分散では、いつも班長とかに頼ってばっかだった。けど今度は私が班長になったので、がんばって地下鉄とかもよく見て、班の子を引っ張っていくことができた。
- ・名古屋分散でのいろいろな失敗などを生かして、他の人のためになることができました。電車でお年寄りが乗ってくるかもしれないと思い、無理に座らず、立っていたりして公共の場だということを考えて人の迷惑にならないように気をつけました。
- ・自分で考えて行動したり、地域の方とかにあいさつをしたりと、いつも少ししかできていないことを自分で考えて動くことができるようになりました。ここでは、何をすべきかを考えることができるようになりました。



「全」・・・全てのことに感謝

- ・ 1日目の夕食のバイキングが終わったあと、お母さんからの手紙を読んで、家に一緒にいるときはあんまり感じてなかったけど、離れてみてお母さんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。もらったおこづかいも、お母さんやお父さんが働いてくれるからあるお金なんだなーと思いました。
- ・ 母や父など親に支えられてこの修学旅行に来れていることもわかったし、すごい普段の生活でも家族に支えられていることがわかった。
- ・ 鳳明館、ヒルトン、両方の宿泊場所で、来た時よりもきれいにすることを意識し、布団を元の位置に戻し、洗面台の水気をふいたりしました。
- ・ 修学旅行に行かせてくれた家の人やバスの時にいろいろと説明をしてくれていたバスガイドの人、旅館の人、ちょっとでも関わった人に感謝している。修学旅行から帰ってきたけど、この「全てのことに感謝」ということを忘れずに生活をしていきたいと思いました。

「礼」・・・礼儀正しく

- ・ 電車やバスとかに乗る機会が多かったので、そういうところでマナーやルールを守ることができました。訪問先の方にあいさつしたり、バスの運転手にあいさつしたりすることができました。
- ・ あいさつを中心に、公共の場では騒ぎすぎないなど注意して動くことができました。
- ・ 旅館、ホテル、訪問先の係員さん、全ての人にあいさつをすることができました。豊岡中の三本柱の一つであるあいさつをしっかりと学校外で実行できてすごいよかったなと思いました。学校内でも率先してやっていきたいです。
- ・ 道を聞いたとき、東京の人はみんな笑顔で教えてくれました。班の子みんなですっと歩きまわってたからみんなでありがとうございました！と、自然にお礼を言えました。
- ・ いつもの学校生活だとなかなか「礼儀正しく」を意識することはなかったけれど、修学旅行で東京に行ったりして公共の場でのルールとか礼儀とかがいろいろわかることができた。なので、これからの生活では、公共の場でのルール、礼儀とかしっかりと意識していきたい。

振り返りの中に多かった声として、以前までの自分と比べて、自分の行動に責任をもって行動ができるようになったことがあげられる。これは、自分たちでつくる修学旅行という意識を高めるとともに、しおり自体も自分で作成することで、自らがとるべき行動を考えることができるようになっていたと考えられる。

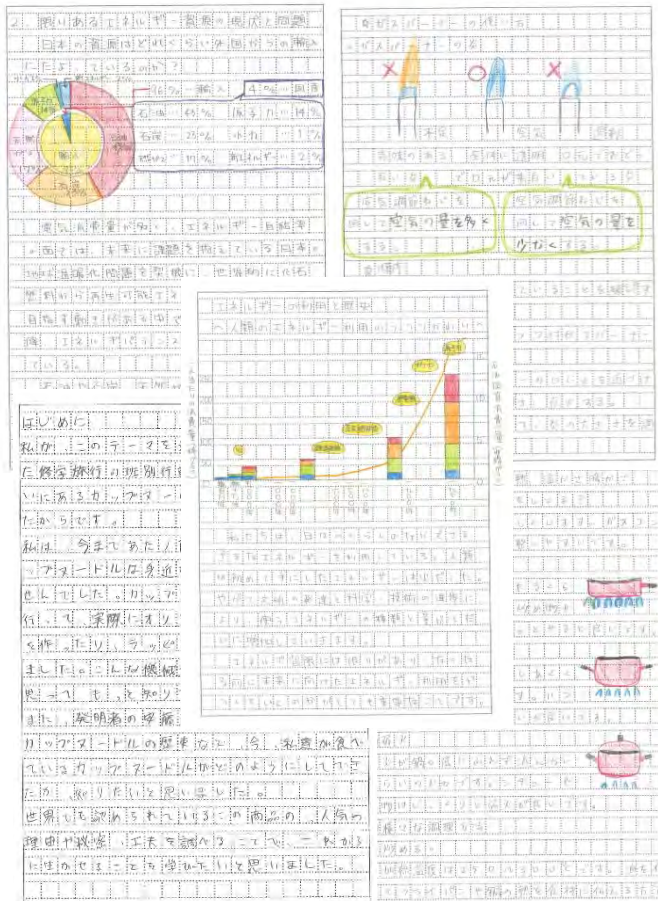
また、修学旅行の中でできるようになったことが、帰ってきてからの生活にも生きているという声もある。あくまでも、学校生活を大切にしようという生徒の思いが感じられる。修学旅行で成長することができた何よりの証であると言える。

## 8. 修学旅行を終えて

### (1) 論文

修学旅行後の「総合的な学習の時間」を使ってまとめを行った。

3日間で得た様々な経験をもとに、自分が興味をもったことを「論文」にまとめることとした。修学旅行先での体験で自分が見たことや感じたことをもとにテーマを決め、夏休み中に調べ学習を行った。



生徒たちが決めたテーマは以下の通り。

- ・日本文化について
- ・日本の技術
- ・日本の伝統工芸品について
- ・日本の下町
- ・昔の技術と最先端技術
- ・東京の建造物について
- ・東京タワー、スカイツリーについて
- ・東京の歴史
  - ・浅草寺の歴史
  - ・政治の中心地「東京」
  - ・東京の歴史
  - ・中華街について
  - ・暮らしを支えるエネルギー「ガス」
- ・ハーゲンダッツ
- ・コココーラ
- ・東京ディズニーランドについて

など

夏休み明けの「総合的な学習の時間」を使って生徒たちは論文を執筆中である。体験先で知りえた情報、夏休み中に調べたことをもとに、図や写真などを使いながら完成へ向けて着々と進んでいる。また、書き進めている最中に「もっと調べてみたい」という生徒の声が出てきた。もともと決めたテーマに縛られる必要はなく、調べたいと思ったことはどんどん調べ取り入れていくと良いこととした。自分の興味、関心はどこにあるのか、論文を執筆する中で自分自身を見つめることができるようになってきている。

- ・他の伝統芸能を知りたいと思いました。それぞれの難しさや楽しさがあると思うので、たくさん調べてみたらおもしろいかなと思いました。
- ・ガスについての技術はわかったけど、その他にどんなエネルギーの技術があって、どんな歴史があるのかを調べてみたい。

## (2) 英字新聞

英語の授業の中でも、修学旅行のまとめと振り返りを行った。

書く内容を英語で考えるのはもちろんのこと、印象的なタイトルや人目を引くようなレイアウトになるよう様々な工夫をこらしながら取り組んだ。



- ・新聞を作るのはすごく難しかったけど、辞書とかで単語の意味を調べたりして、今までわからなかった単語の意味とかもわかっていい勉強になったなあと思いました。
- ・最初はとても難しいかなと思っていました。今まで英語だけで文章を考えたことがなかったので、とても難しく感じました。でも、自分が思っていたよりも完成度が高くてよかったです。

## (3) お礼の手紙

修学旅行のテーマの中に「感謝」が大きく入っている。生徒たちは旅行後、体験先や宿泊先にあてて、すぐにお礼の手紙を書いた。二年生時の職場体験においてもお礼状を書いており、その時の経験を生かして一人ひとりお礼状を書き上げた。書いている最中、教室は静寂に包まれていた。文面からは、一人ひとりにとって修学旅行の思い出が素晴らしいものになったこと、そしてお世話になった方々への感謝の思いがあふれていた。

## 9. おわりに

「みんなで考え、みんなで作る修学旅行」をテーマに修学旅行を行った。自分たちの思いが形となって表れる喜びとともに、自分たちで計画していくことの大変さも味わった。また、今後の自分の進路を考えるうえで、様々な事物に触れてたくさんのヒントを得た。

これから生徒たちは卒業、そしてそれぞれの進路へと向かっていく。修学旅行のテーマで掲げた「前進全礼」の思いを胸に、自らの力でそれぞれの道を切り拓いていってくれることを望んでやまない。